

小児科研修プログラム

一般目標(オリエンテーション)

研修によって、子どもの誕生の時から 15 歳までの子供の成長、発達の全体像を把握し、プライマリ・ケアに対処できる基本的な態度、判断力、技術、知識を習得させ、科学的 根拠に基づいた全人的な医療を実践できる臨床医を育成することを目的とする。

1. 子どもの特性を学ぶ

(ア) 子どもの成長・発達と異常に関する基本知識を習得する

① 栄養法

② 身体発育と異常の発見

③ 神経発達、性的発達と異常の発見

(イ) 子どもの心身の特性を知り、身体的状態だけで無く心理的状态を考慮した診療態度を身につける

(ウ) 養育者の不安・育児不安などを受け止める

2. 児童診療の特性を学ぶ

(ア) 子どもや養育者との信頼関係を構築し、訴えに十分耳を傾ける。

① 養育者からの情報を的確に収集できる

(イ) 養育者の情報と子どもの観察から病態を推察する「初期印象診断」の経験を蓄積する

(ウ) 子どもの年齢と状態に応じた臨機応変な診療を行う

① 診療に際して子どもの協力を得るためのスキルを身につける

(エ) 児童の薬用量、検査値などは成長とともに変化することを理解する

(オ) 児童の採血、血管確保、鎮静法、予防接種、マス・スクリーニングなどの基本的技能を習得する

(カ) 日般小児診療だけでなく、乳幼児健康診察、新生児医療、小児救急医療などは小児科診療の中で重要な位置を占めており、これらの現場を体験することが望ましい。

3. 児童疾患の特性を学ぶ

(ア) 児童疾患は成人と同じ疾患でも病像が異なり、同じ主訴・症候でも年齢により鑑別疾患が異なることを理解する

(イ) 年齢特性を理解した上で鑑別疾患をあげ、子どもの病態に応じて問題解決をする経験を蓄積する

(ウ) 子ども特有の疾患、種々の先天異常を経験する

(エ) 頻度の高い疾患(感染症、痙攣、喘息など)については、診断・治療方法について習熟する

行動目標

B-1 医学・医療における倫理性	(ア) 子どもや家族との良好な人間関係を築く (イ) 子どもや家族の心理状態・社会的背景に配慮 (ウ) 入院している児のストレスに配慮する (エ) 母秘義務とプライバシーを遵守する
B-2 医学知識と問題対応能力	(ア) 子どもの問題を病態・発育発達・心理・社会的な側面から正しく把握する (イ) 得られた情報を統合し、指導医と議論し、エビデンスに基づき診断し問題解決する
B-3 診療技能と患者ケア	(ア) 年齢に応じ、適切な手技により系統的に診察する (イ) 子どもの全身状態(機嫌、動作、行動、顔色、元気さなど)を包括的に観察し、重症度を推測する (ウ) 聴診により、顔貌、栄養状態、発疹、呼吸状態、チアノーゼ、脱水などを評価する (エ) 正確に身体計測とバイタルサイン測定を行う (オ) 身体発育、性的発育、神経学的発達、生活状況の概略を評価する (カ) 診察中、子どもや家族への声かけなどの配慮をする
B-4 コミュニケーション能力	(ア) 子どもや養育者との信頼関係に基づいて情報収集する (イ) 子どもに不安を与えないように接する (ウ) 子どもに痛いところ、気分の悪いところを示してもらい (エ) 養育者から診断に必要な情報(発病の状況、いつもと違う点、心配している点など)を的確に情報収集する (オ) 養育者から子どもの発達歴・既往歴・予防接種歴などを聴取する (カ) 傾聴・共感的態度でコミュニケーションを図る (キ) 心理・社会的側面に配慮した病歴聴取を行い、身体疾患だけでなく心理的問題も把握する (ク) 患者・家族が納得できる医療を行うために、適切に説明・指導する
B-5 チーム医療の実践	(ア) 医師、看護師、薬剤師、保育士、事務職員、その他の医療職の役割を理解し、協調して医療を実践する (イ) 指導医・他分野の専門医に適切なコンサルテーションを行う (ウ) 同僚・後輩医師、医学生などに教育的配慮を心がける
B-6 医療の質と安全管理	(ア) 医療安全の基本的考え方を理解し、安全管理の方策を身につける (イ) 病院内での子どもの事故(ベッドからの転落など)を防止する (ウ) 院内感染対策を理解し、感染予防策を実施する (エ) 医療事故防止の基本を身につける
B-7 社会における医療の実践	(ア) 医療保険制度、公費負担制度を理解した診療ができる。(イ) 節度と礼儀を守り、無断遅刻、無断欠席なく勤務できる。ロ
B-8 科学的探究	(ア) 問題解決のための、医学情報を収集し、適切な診断法、治療法の選択を行う。(イ) 上級医と子どもの病態についてディスカッションし、疾患についての理解を深める
B-9 生涯に渡って共に学ぶ姿勢	(ア) カンファレンスや研究会、学会に参加し、新しい知識の習得法を学ぶ。(イ) 文献検索の方法などを学ぶことで、論文など学術情報の収集法を学ぶ

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8:30～			Morning conference、採血、受け持ち患者把握		
8:50～				腎カンファレンス	
9:00～		受け持ち患者診察、外来研修(見学および処置実習)			
12:30～13:30	エコー	脳波	腎生検	排泄性膀胱造影	PALS/NCPR演習
13:30～15:00	回診	新規入院患者診療(問診、診察、指示、処置)			
15:00～16:00	抄読会				
16:00～17:00	受け持ち患者診察・指導医と翌日以降の検査・治療についてディスカッション				

病棟業務

総合診療、チーム医療、基本的診療(診断、検査、治療)、基本的手技
病棟 感染症、小児薬用量と使用法、補液療法、輸血、治療、新生児・未熟児医療見学

手術

無し

カンファレンス

Morning conference (毎朝) 8:30～

回診及び小児科カンファレンス/抄読会(月) 13:30～

腎カンファレンス(木) 8:50～

周産期カンファレンス(月1回、金) 16:00～

任意

福岡小児腎病理カンファレンス(偶数月、水) 18:30～ 当院主催

福岡地区小児科勤務医会(偶数月、木) 19:00～

福岡クロスキッズカンファレンス(年1回、10月) 19:00～ 当院主催

福岡周産期ジョイントカンファレンス(奇数月、金) 19:00～

その他 緊急時対応・学術活動等

救急車の連絡がある場合には集合し、指導医のもと診療に参加する

初期研修で発表を行う機会

福岡小児神経懇話会、福岡地区小児科勤務医会、福岡小児腎疾患治療研究会 など

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中6症候)		
1	ショック	
2	体重減少・るい痩	
3	発疹	○
4	黄疸	
5	発熱	○
6	もの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	○
11	視力障害	
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○
18	腹痛	○
19	便通異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	○
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中4疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	○
10	気管支喘息	○
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	○
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	○
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送		○			○	
皮膚消毒						
外用薬の貼布・塗布		○			○	
気道内吸引・ネブライザー		○			○	
静脈採血		○			○	
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去			○			○
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)		○			○	
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						○
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保			○			○
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)			○			○
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)			○			○
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法			○			○
⑭創部消毒とガーゼ交換			○			○
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験			○			○
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)			○			○
心電図の記録	○			○		
超音波検査						
評価(Ev)						
研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。 A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。 B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。 C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。						